

「キリスト教学校教育」2026年3月号 特集『平和教育の実践』加盟学校アンケート 回答一覧(3)

4、キリスト教学校だからこそできる平和教育にはどのようなことがあると思いますか

小学校回答：P.1 中学校・高等学校回答：P.2-5 大学・短期大学回答：P.5-6

※ 回答の終わりにある()内は、学校が所属する教育同盟の地区名

〔小学校〕6件

- ◇学院礼拝を通して、平和を祈り続け、記念礼拝に説教者をお招きし、学外団体と平和を希求する活動を継続できましたら幸いです。 (関東)
- ◇時代や地域によって変わることはない、聖書の言葉を土台としていること。 (関東)
- ◇・聖書の語る平和を各年齢の発達に応じた言葉で繰り返し語ること。
・平和の神をたたえる讃美歌を歌い、その歌詞を心にとどめるようにすること。(関東)
- ◇・戦争や争いごとは遠い場所で起きていることではなくて、その同じ種は罪として自分たちの心の中に今もあることを知ること。そこから戦争を自分ごととして、向き合う姿勢が大切かと思います。
・相手も神さまから愛されている大切な一人であることを知り、憎しみではなく愛をもってゆるしあい、解決に向けて歩む姿勢が大切であること。
・人の思いではなく聖書に基づく平和を考えていく必要があること。 (関東)
- ◇・聖句と平和の概念を結びつけることが多くあるが、そのことはとても有効に、子どもたちに伝わっていると思う。
・人の罪というものをしっかり考える時が与えられることは、キリスト教ならではのと思う。 (関東)
- ◇・祈る
・み言葉と共に、自分にできることを考え、実行する。
・どうして必要なのか、何に使われるのか理解したうえでのクリスマス献金等 (西南)

〔中学校・高等学校〕 28 件

- ◇排外主義ではなく、隣人を意識した教育 (東北・北海道)
- ◇人間が考え訴える平和はあくまで相対的なものであり、神にこそ真の平和がある、というメッセージを発する教育。自らを相対化することで、謙虚になり、聴き合い、相手の事情を慮る姿勢を育てることが大切だと感じる。 (東北・北海道)
- ◇前項にある行事の講師は必ずしもクリスチャンではありませんが、講師がクリスチャンですと講演の中で御言葉への言及があったり、最後に祈っていただいたりして、宗教的情操が養われる機会となります。もちろんノンクリスチャンの先生方も素晴らしいご講演をしていただいております。 (東北・北海道)
- ◇あらゆる違いを超えて、すべての人はかけがえのない「神の子」であるということにあると思います。そんな一人ひとりの命を大切にするという根拠から平和を語ることができるのだと思います。 (東北・北海道)
- ◇学院礼拝を通して、平和を祈り続け、記念礼拝に説教者をお招きし、学外団体と平和を希求する活動を継続できましたら幸いです。 (関東)
- ◇ゆるし・和解は根本には神との和解があり、人と人との間に実現するゆるし・和解は神からのプレゼントであるということを伝えられるのはキリスト教ならではの思いです。人の努力によるゆるしや和解の実現も起こり得ると思いますが、ゆるすべきという相手への押し付けになる恐れもあるので、ゆるせない思いを受け止めつつも、神に希望を持つことの両方が可能であることを示せると思います。信仰によって和解に導かれたクリスチャンの経験談や事例には説得力があります。 (関東)
- ◇聖書が教える「神の平和」や人間の罪の問題を踏まえ、ヒューマニズムを超えた視点を持って平和について探究できると思います。ヨハン・ガルトゥンクがその「積極的平和」において指摘している貧困・格差・差別・環境破壊などの「構造的暴力」の問題も平和教育のテーマになると考えます。一方、政治権力者が神の名の下に暴力を正当化することに対しても、キリスト教学校だからこそ批判的な視点を持つことができると思います。宗教が平和を創り出す原動力になり得ることを具体的なイメージを持って生徒に伝えられるようになりたいと思います。多元的な観点に立ち、価値相対主義を超えた平和教育を目指したいと考えます。 (関東)
- ◇エフェソの信徒への手紙 2 章に記されている「キリストの平和」、すなわち十字架によってつくられた平和というメッセージを土台にすること。しかし、私たちはこの平和を実現することは未だできていないが、平和への思いをキリストにより与えられていることの確認から出発できること。 (関東)

- ◇キリスト教学校は、現代の「平和」という言葉自体が様々な解釈や背景を持つ中で、聖書の言葉として確固たる意味づけを行うことができるという強みを持つと考えます。また、本校ではマタイによる福音書5章9節から「Peace maker」を育てることを教育の理念としています。そのように学校の理念として掲げ、諸教育活動に活かすことができるのはキリスト教学校だからこそできる平和教育であると思います。 (関東)
- ◇一日修養会でも沢知恵さんをお招きして、ハンセン病について考えたり、ヒロシマ平和の旅などを実施しています。また牧ノ原やまぼと学園訪問など、「共に生きる」ことについて考える機会を多くもっています。 (関東)
- ◇聖書の教えを元にして、現地の教会や学校との繋がりを生かした活動が実施できる。 (関東)
- ◇礼拝で話すことができ、キリスト教の視点から平和を考えることができる。 (関東)
- ◇どうにもならない、明確な解決方法がわからないことに対しても日々「祈り」をささげることができること。そして聖書を通して、「敵を愛する」「平和を実現する人は幸いである」とはどういうことか投げかけ、教師と生徒が対等な立場として共に考えていくことができることだと思います。 (関東)
- ◇キリシタン迫害だけでなく、長崎被ばく、沖縄戦と基地問題について、一般論ではなく、キリスト教信者の言葉や活動を通じても学び考えることができる。 (関東)
- ◇他のキリスト教学校との平和教育の連携ができる(かつて、関係校との平和教育プログラムを行ったことがある。長崎の活水学院と東京のキリスト教学校とでオンラインミーティングを本校を会場に行ったり、生徒有志が東京大空襲で亡くなった方々のお名前を読み上げるプログラムに参加した)。 (関東)
- ◇「隣人を自分のように愛しなさい」という、聖書の言葉を根本理念とした平和教育や活動。 (関東)
- ◇聖書にもとづく、キリストにおける平和を語っていくこと。 (関東)
- ◇キリスト教にもとづく世界観、人間観による平和教育にとりくむこと。毎朝の全校礼拝、聖書の授業がそのための土台となると思う。 (関東)
- ◇戦時下(日清日露戦争から太平洋戦争に続く)において、日本のキリスト教学校が置かれた状況、特に、生徒自身が属している学校が置かれた状況を学ぶ。その状況の中で、自分の学校や先輩たちは、どのように戦前、戦中、戦後を歩んだかを知る。戦争の被害として、国内の圧力や、キリスト教学校であるから受けた試練があり、それらに対抗して、学校を守るため、もしくは、在校生を守るために「せざるをえなかった決断」があ

る。そこで、自分の学校が大切にしたいものが、キリスト教であることを学びたい。

今も、それを大切にしているのがキリスト教学校である。 (関西)

◇授業では聖書の話と現代の社会問題、人権問題との関わりを語ることが大切だと思います。「神の国」＝「平和な社会」と位置づけ、生徒たちには将来、よりよき社会になるための知識を深めてもらう必要があると思います。 (関西)

◇教会のネットワークを生かした、平和実践の講演（かつては沖縄で金城重明牧師や金井創牧師に直接お話しいただいたこともあった。） (関西)

◇他のキリスト教学校と連携して教育できる。 (関西)

◇命の尊厳について、深く関わり学べる場が日常的にあること。 (関西)

◇小さき声に耳を傾け、社会で弱い立場に立たされている人々に寄り添おうとされたイエスの生き方に倣った平和学習の実践。また同時にイエスのようには人を愛すことのできない自分の弱さに出会うことも理想主義に陥らないために大事なことだと捉えている。 (関西)

◇被災地で地元のキリスト教会（キリスト教の学校）と繋がって交流できる。教会を拠点にして支援の輪を広げることができる。（生徒たちに現地活動を経験させることができる。） (関西)

◇どのような災禍、裏切りや暴力がこの世に満ちてもそれは神さまの罰ではなく、逆に神様が必ず平和を実現して下さることが伝えられる。真の人イエスさまが人間の弱さや愚かさを最もご存知であり、なおインマヌエルの主として弱い人間を支えて下さっている。そこに希望があることを教えることができる。 (西南)

◇「平和を実現する人は幸いである」というキリストの言葉や、「平和の君」と呼ばれるキリストを建学の精神に掲げるキリスト教学校は、真の「平和」の意味や意義を聖書の学びや礼拝を通して学ぶという大きな柱を持っている。また、隣人愛が平和への礎となっていることを聖書に基づいて伝えていく使命があると思う。 (西南)

◇〔礼拝の大切さ、意義深さ〕

・特に時期を定めず、必要に応じて、礼拝の奨励の中でメッセージが語られることは幸いである。

・聖書のメッセージは神の愛＝平和と考えることができ、そういう意味では礼拝、聖書の授業、キリスト教行事、活動によって日々平和が語られ、表されていると言える。

・祈りを通して他者の痛みを心に寄せ、今日をどう生きるかを問い続ける学びが繰り返される。

〔神の前に立つ一人ひとりの尊厳を大切に、記憶に学び、祈りを行動へ〕

・折鶴を折る手、言葉を紡ぐ声、音楽として響かせる思い、沈黙の中で捧げる祈り—それらはすべて、他者と共に生きる決意へとつながる。生徒たちは祈りを通して、自分の無力さを受け止めつつも、小さな一歩を踏み出す勇気を育んでいる。1日が礼拝で始まり、礼拝で終わる。生徒たちはその日々の学校生活の中で、互いを尊重し、声にならない思いに耳を傾け、誰一人取り残さない関係を築こうとする営みそのものが、平和の実践に繋がっている。 (西南)

〔大学・短期大学〕 14 件

◇キリスト教や聖書を通して平和について語ることももちろん重要ですが、古代から現代に至る戦争の歴史、近代以降の帝国主義と植民地支配、そしてポストコロニアルとも呼ばれる現代世界においても、戦争や紛争にはキリスト教が深く関わっています。その省察を抜きには平和を語ることも実現することも不可能でもありますので、キリスト教と戦争の問題を直視し、日本の戦争責任や現在の東アジアの平和の問題を考えていくことができるのではと考えています。 (東北・北海道)

◇イエスを心に迎え、互いに愛し合うこと。 (東北・北海道)

◇聖書における「シャローム」の社会的実践を考える。聖書の中の様々な物語を「平和」の視点から読み解いていく (東北・北海道)

◇人間は「神のかたち」とされており、「自分のように隣人を愛する」ゆえに自己を受容し、他者と共生するというキリスト教の要は、生きづらさに押しつぶされて自己受容ができなくなっている多くの若者に対して心の支えになるものです。1回聞いただけでは「きれいごとを」と思う人が多いでしょうが、何度も聞いて詳しい解説を聴いているうちに、それが自分の人生に重なっており、自分が求めていたことだと気づいて行きます。また、自分の心にある弱さや暗闇も、「そういうものがあっても、自分はお愛されており、価値がある」ということを知ると直視することができます。暴力は自分の中の弱さを否定することから始まることが多いので、神の愛に基づく自己受容と共生は、平和の土台になると思います。単に「戦争はよくない」というだけでなく、心の中の暴力性とどう向き合うかを伝えることができることが、キリスト教学校の良い点です。 (東北・北海道)

◇戦争がないという意味での物理的な平和づくりのみならず、心の平和(=平安)づくり。そして、そんな平和・平安の根源としての「愛」についての教育・実践。 (関東)

- ◇どちらかと言えば平和教育そのものよりも多文化理解などを深めることに有用であると
感じる。 (関東)
- ◇キリスト教の国際的なネットワーク、特に、アジアにおけるキリスト教学校のネットワ
ークを活用した、平和教育。特に、日本の戦争責任を自覚できるような交流。 (関東)
- ◇キリスト教の授業（キリスト教入門、キリスト教と倫理、キリスト教と社会等）、
及び日々の礼拝（月曜から金曜）、前後期宗教週間等、様々な機会に、平和教育を行う
環境が整っている。 (関東)
- ◇戦争はもちろんのこと、大量虐殺については取り上げる必要があると思います。 (関東)
- ◇研修旅行等を実施する際には、現地の教会やキリスト教学校と連携して、キリスト教の
視点から平和を学ぶ企画を立てることができる。 (関西)
- ◇礼拝や折々の祈りの中で、平和のことを伝え続けていくこと。なぜ平和が大切なのかと
いうことも含めて。 (関西)
- ◇建学の精神を確認する場としてチャペルがあるので、平和教育の場として用いやすい。
(関西)
- ◇・キリスト教学校（日本のみならず海外を含め）の交流。
・授業やチャペルアワーでの聖書の学びを土台として、平和を成す者となることの重要
性を伝える。
・聖書から神様の愛を伝え、平和の尊さと難しさを学ぶ機会を創造できる。 (西南)
- ◇「平和教育」というと、どこも得てして歴史の勉強になりがちです（と、幼稚園の時か
ら平和教育を受ける長崎の学生たちが教えてくれました）。本学でも多分にそれはあり
ますが、キリスト教の根本にある「祈る」ということに焦点を当てて考えています。
とくに執り成しの祈り、他者のために祈るということを大切にして、その重要さを学ん
でもらえるように取り組んでいます。 (西南)